

【教育方針】

仏教の教え「仏：明るく」「法：正しく」「僧：仲良く」を礎に、生涯にわたる人間形成の基礎『生きる力』を育む仏教保育を行い、遊びを通して健やかな体と、豊かで伸びやかな心の成長を目指す。

【教育目標・方針】

- お友達と元気にのびのびと元気に体を動かす
- 幼児期にしっかりと遊びこむ経験を重ねる
- 子どもたちが幼稚園で遊んで楽しかったという気持ちで心を満たしてあげる
- 指先を使ったお絵描きや折り紙などの製作や絵本の読み聞かせを通して創造力を育てる
- 仏教行事・年中行事などを通して自然にふれる経験をする
- 運動会・発表会を通して練習を重ねて頑張るという日常の保育とは異なった経験をつむ

【本年度の重点目標】

- ①屋外・室内活動で全身をつかった遊びの充実を図る
- ②製作活動についての課題を見つけ検討を行う
- ③園行事の時期や活動内容について丁寧に計画し見直しを図る

【取り組み内容】

- ①保育のなかで最も大切にしている“子どもたちが楽しいと感じること”である遊びを大切に、いかに楽しみながら体幹の強化や粗大運動につなげる遊びができるか、設定保育のなかで多様な遊びに取り組み、子どもたちの身体づくりにつなげる。
- ②学期ごとに製作活動について振り返りを行い教職員間で共有することで課題を見つけ、年齢に応じた段階的な製作活動の長期計画の練り直しを図る。
- ③幼稚園の2大行事である運動会と発表会について、いずれも初めての場所での開催となることから、競技・演目内容の協議などを早めに行い職員間でしっかり計画を立て、今後の行事計画につなげる。

【取り組み内容の設定理由】

令和5年度の振り返りにおいて、子どもたちの製作活動の内容や量について再検討が必要との課題が出ました。その背景には、一斉指示で理解する“聞く力”と、製作活動で大切な手先をしっかりと動かせる“指先の器用さ”、その双方ができるための身体づくりがまず大切だとの課題が明確になりました。そこで、わか葉幼稚園が大切にしている“遊び”において、身体を動かす粗大運動の充実を図り、指先などの微細運動にもつながる身体づくりを目指していくことを設定しました。そのうえで、紙・ハサミ・糊・クレヨン・絵の具・折り紙を中心とした製作活動において、2歳から5歳までの製作物の内容と1年間で製作する作品数を見直す検討のための1年とすることとしました。園行事については、令和8年度よりこども園への移行予定であることと、年々厳しくなる暑さへの配慮から、新設されたアリーナ（人工芝）での運動会、同じく新築された野口遵記念館での発表会と、いずれも初めての場所での開催となるため、大きな2つの行事について計画・実行・課題の発見に努め、今後の行事計画につなげていく1年にしたいと考えました。

【評価項目並びに具体的保育活動】

| | 評価項目 | 評価 | 具体的保育活動 |
|---|-----------------------|----|--|
| 1 | 屋外・室内活動における運動遊びの充実を図る | B | <p>設定保育だけではなく朝の登園後から設定保育開始前までの時間においても、年長組を中心にできるだけ外に出て体を動かすカリキュラムを立てた。鬼ごっこなど全身を使って動くことで気持ちの発散にもつながり、その後の室内での活動に落ち着いて取り組むことができる効果も感じられた。年中組は学期が進むごとに集団遊びが上手になり、自由遊びの時間も運動ゲームで園庭を動き回る姿が多くなった。外でしっかり遊べるようになったことで身体にも変化が見られ、ハサミの使い方が上達し、運動遊びの取り組みに効果を感じられた。また、年長・年中組による異年齢での活動を活発化するようにも努め、子どもたちから“楽しい”という声が多く聞かれ、遊びの充実だけではなくお互いに心理的にも刺激し合える良さがあるので、次年度からも保育計画に組み込むようにする。年少少組、年少組は登園後の準備などに時間が必要なため、設定保育の時間に屋外で活動するカリキュラムとなるが多かった。年少少組は、個々の身体の成長に差が大きいので個別計画の重要性が再確認できた。室内遊びの体操の内容を学期ごとに検討したり、リトミック教室で専門の先生が行っている内容をクラスでも取り入れてみたりと、子どもたちの身体の成長を見ながら工夫に努めた。年少組は1学期はまだ集団遊びよりも個人で遊ぶ姿が多かったため、体操に取り組んだり集団遊びの機会を少しずつカリキュラムに加えた。</p>  |

| | | |
|----------|------------------------------------|--|
| <p>2</p> | <p>製作活動についての課題を見つけ検討を行う</p> | <p>C</p> <p>年少組は1学期に絵の具を多く使うカリキュラムを立てた。子どもたちが筆を持ったり手形や足形を楽しむことができ、子どもたちの“やりたい”という意欲がどんどん上がっていくのを実感できた。年中組は1学期にハサミを使う製作を多く取り入れ使い方に慣れるように努め、2学期以降は折り紙の製作の回数を増やしたカリキュラムを立てた。また、年少組年中組の合同で製作に取り組む保育を取り入れた。年少組は手で小さくちぎり年中組はハサミで切り、糊で貼る作業を共同で行うなど、それぞれの成長に合った活動を行いながら製作を進めた。作品は大きさも大きく、個々で製作するのとは違った達成感を感じることができた。子どもたちの交流もできとても良かった。年少々組は片栗粉・小麦粉・小麦粉粘土など色々な素材にふれる感触遊びを1学期に組み、手に触れること手を動かすことに慣れるカリキュラムとした。年長組は来年度（小学校1年生の時）のカレンダー製作に1年間を通して取り組んだ。わか葉幼稚園で長期にわたり取り組んでいる製作だが、6年度は行わない予定でカリキュラムを組んでみたが、切る・貼る・塗る・折る・描く、すべての手作業を経験するこのカリキュラムは残した方がよいと再検討を行い2学期から1学期分も製作を行い取り組んだ。製作の保育においては、指先の器用さや折り紙の理解度など個々の力の差を感じた。就学に向けて残り1年間の保育において、個別にどのように声掛けや指導を行うか再検討が必要である。</p> <div data-bbox="699 1070 963 1422"> </div> <div data-bbox="986 1106 1410 1422"> </div> |
| <p>3</p> | <p>園行事の時期や活動内容について丁寧に計画し見直しを図る</p> | <p>B</p> <p>運動会は雨だったがアリーナなので競技変更もなく、暑さもしのげて良いコンディションで開催することができた。リハーサルで人工芝にも子どもたちは慣れ走りにくさはないようだった。今までの9月末や10月上旬の開催から6月という新年度3ヶ月の開催だったため、練習が必要となる年中組のバレー、年長組の組体操とマーチングは、それぞれ前年度から練習を開始しており、競技内容が子どもたちの心身に無理のないように配慮したことで、子どもたちは順応して取り組むことができた。しかし、担任が変わって3ヶ月での指導は、子どもたちとの信頼関係づくりが課題の1つとして挙げられた。来年度はアリーナでの開催2回目となるので、令和8年度のこども園移行後の運動会も想定しながら、競技内容について再検討をおこなっていきたい。</p> <p>発表会は新しい施設になったことで、音響・照明・スクリーンを利用して新たな演出を試みることができた。園児控室なども新しい環境だったため、衣装のお着替えや舞台づくりなど今ま</p> |

| | | |
|--|-----------------------------|--|
| | 園行事の時期や活動内容について丁寧に計画し見直しを図る | <p>で保護者の方のお手伝いを依頼していた内容を再考して行った。例年は12月に開催していたが予約の関係もあり、11月という早い時期での開催となった。演目としてリズム遊び・ダンス・音楽劇・お悟りの劇・合奏・合唱をどのように行うのか春から検討を重ねた。どれも練習が必要となるが、子どもたちのモチベーションを保つためにも、練習をどのようにどのくらいカリキュラムに組むのかが課題の1つとなった。夏休みを利用して早くからの準備に入ったが、ダンスの練習をしてみると手足の共同運動など、子どもたちの身体の使い方の苦手さへの配慮が必要と判断された。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> |
|--|-----------------------------|--|

評価 (A: 十分に成果があった B: 成果があった C: 少し成果があった D: 成果がなかった)

【今後取り組む課題】

| | 課題 | 具体的な取り組み方法 |
|---|--------------------------|---|
| 1 | 身体をつかった遊びと製作活動のカリキュラムの構築 | 令和6年度の保育活動を踏まえて、子どもたちの心身の成長にあった運動遊びと製作活動のカリキュラムを年齢ごとに作成し、成果が得られ子どもたちにとって楽しい幼稚園生活を送れるようにする。 |
| 2 | 園行事の見直し | 運動会と発表会を新しい環境で今までと異なった時期に開催してみても課題も見つかった。また、田植えや芋ほりなど今まで行っていた食育に係る保育や園外保育も、行うことが難しかったりと見直す必要が出てきている。令和8年度からのこども園への移行を踏まえて、全体的に園行事の見直しを図る。 |
| 3 | 幼少連携 | 小学校と連携・協働して幼少期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図る“幼保小の架け橋プログラム”の実現に向けて、小学校での学びにつながるカリキュラムの構築と、実際に小学校の先生方との対話を図る。 |

【学校関係者評価委員会意見書】

① 「屋外・室内活動で全身をつかった遊びの充実を図る」について

- 朝の登園や預かり保育のお迎え時に、クラスを越えて外で仲良く元気に遊ぶ姿が日常的にあると思う。
- 遊びの中のルールや経験から秩序や動き方、思いやりなどを学んでいると感じる。
- 広い園庭で走り回れる環境が素晴らしいと感じる。
- 保育のなかでリトミック教室もありリズム感も育まれていると思う。
- たくさん身体を動かせるカリキュラムに今後も取り組んで欲しい。

② 「製作活動についての課題を見つけ検討を行う」について

- 時季ごとに様々な製作物を作り、絵を描いて掲示していると思う。
- どのような物を作ったか、誰と作ったか、子どもも喜んで製作物の話をしてくれる。
- 手先を使い考えて作ることで子どもたちの成長につながっていると思う。
- 年齢に合った難易度かつ子どもが“やってみたい”と積極的に取り決める製作活動をしていると思う。
- 絵具や粘土など家庭でするには少しハードルが高い遊びも経験できている。
- 各年齢に合わせて多くの作品を制作しており、共同制作・個人製作と園児はそれぞれに達成感を感じて取り組んでいると思う。

③ 「園行事の時期や活動内容について丁寧に計画し見直しを図る」について

- 運動会・発表会は開催場所が新しい施設となり慣れないなかではあったが、早い時期から準備・対応がされており子どもたちも無理なくスムーズに取り組むことができている様に感じられた。
- 毎月の行事については園だよりでも来月の行事等がわかるようになされており、参観日の懇談会等でも共有されている。
- 2大行事の運動会・発表会は開催後にはPTA役員会にて保護者を含めた意見交換の場が用意されており可能な限り意見を反映されていると思う。
- 運動会は屋内施設を利用できるようになったことで雨天時に日程変更について考慮する必要がなくなり、今後は計画的な準備が可能になったが、暑さ対策が急務であると思われる。
- 発表会については、会場・開催方法・時期等において問題ないのではないか。